

# 第3学年道徳学習指導案

平成28年7月13日(水) 第6校時  
四万十市立東中筋中学校 第3学年 19名  
授業者 尾崎俊巳

- 1 主題名 誇りある生き方 3-(3)
- 2 ねらい 人間のもつ美しさ気高さを信じ、誇りある崇高な生き方を実現しようとする心情を育てる。
- 3 資料名 「高砂丸とポトマック川のこと」( 出典:「自分をのぼす」あかつき )
- 4 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の考え方〔指導観〕

内容項目3-(3)は「人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることの喜びを見いだすように努める。」ことを目指している。人間は、総体として弱さを持っているが、それを乗り越え次に向かって行くところに素晴らしさがある。ときとして様々な誘惑に負け、易きに流れることもあるが、人間として生きることへの喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強く、また、気高い存在になりうるのである。指導にあたっては、まず自分だけが弱いのではないということ、弱い自分と気高さの対比に終わったりすることなく、自分を奮い立たせることで目指す生き方、誇りある生き方に近付けるということに目を向けられるように指導したい。

(2) 生徒の実態と教師の願い〔生徒観〕

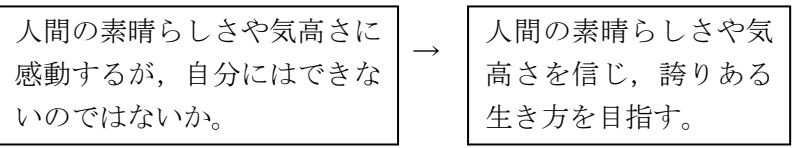
本学級の生徒は学校生活に、前向きに取り組むことのできる生徒たちである。日々の課題の提出なども易きに流れることなくできている。その一方で進路決定に向けて悩む姿も見受けられる。生徒それぞれが自分の将来像を描きつつあるのではないかと思われる。そういった人格形成期の生徒たちに、人間の弱さや醜さを認めながらも、人間のすばらしさや気高さを信じる心情を育てたい。

(3) 使用する資料の特質及び生徒の実態とかかわらせた指導の方策〔資料観〕

本資料にある二名は、自らの危険を省みず、他者の命を救おうとした。結果的に命を落としてしまうことになるが、彼らは誇りある生き方を貫いたのである。本資料ではそういった二人をたたえる人たちにスポットが当てられている。二人の行為に人々は胸をうたれ感銘を受け、たたえる。その思いの中にある、誇りある生き方へのあこがれに共感させることで、人間の素晴らしさを信じ誇りある生き方を実現しようとする心情を育てたい。

5 本時で期待する生徒の姿

〔授業前の生徒の考え方〕 → 〔授業を通して高めたい生徒の考え方〕



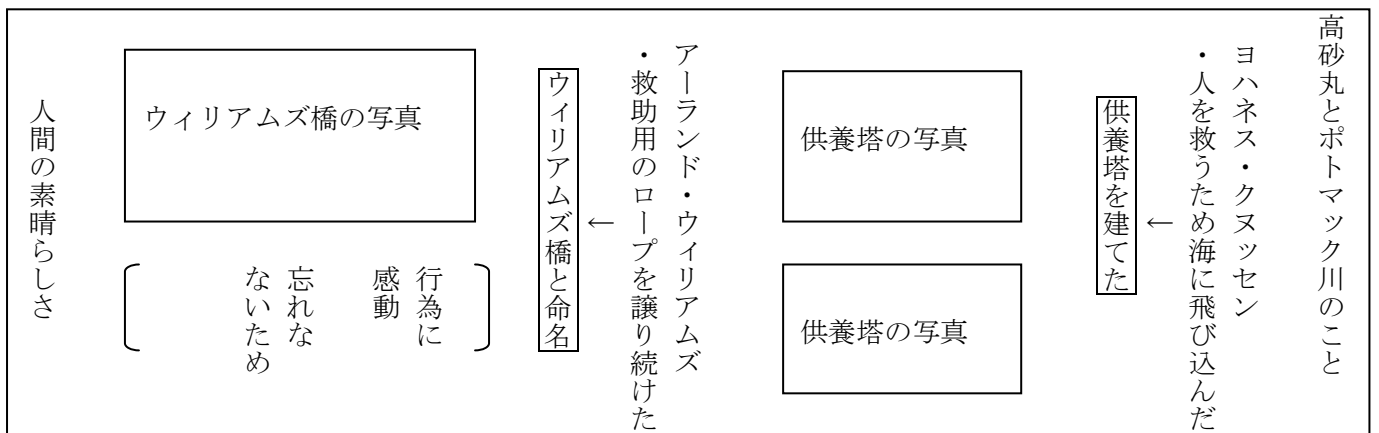
6 準備物

7 本時の展開

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応 ◎中心発問	指導上の留意点 ※評価の視点
導入	1 映像を見てポトマック川でのできごとに関心を持つ。		

展 開	<p>2 資料「高砂丸とポトマック川のこと」を読む。</p> <p>(1) 印象に残った部分を述べる。</p> <p>(2) 二人の誇りある生き方を捉える。</p> <p>(3) だれの心の中にもある気高さや誇りある生き方への憧れを捉える。</p>	<p>○この話を読んで、どんなところが印象に残っただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アーランドさんがロープをゆずったところ</li> <li>・クヌッセン機関長が荒海に飛び込んで助けようとしたところ</li> </ul> <p>○二人の行為をどう感じましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の命をかけて人の命を助けるなんてすごい。</li> <li>・自分にはできない。</li> </ul> <p>◎人々が橋の名前を「ウィリアムズ橋」としたのはなぜだろう。</p> <p>[補助発問] クヌッセンの供養塔を建て今も手入れをしている人たちはどんな気持ちでしているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウィリアムズさんのことを忘れないため。</li> <li>・ウィリアムズさんの行為に感動したから。</li> </ul>	
	終 末	3 まとめ	○誰かの行為に感動したことはないだろうか。
			本時のねらいにつながる行為について、であることに気をつける。

8 板書計画



9 他の教育活動との関連

